

(一般質問)

| 質問日 | 令和4年3月10日(木) | | 質問方式 | 分割方式 | | | |
|---------------------|---|-----|------|------|---|----|------------------------|
| 質問順位 | 3 | 会派名 | 公明党 | 議席番号 | 7 | 氏名 | 山崎 とし子 |
| 表 題 | 質 問 内 容 | | | | | | 答弁者の職名 |
| 1 音楽の都を目指すことについて | <p>この2年あまりのコロナ禍において、本市ではデュアルモードとして、ホールでの生演奏とオンライン、YouTubeなどでのコンサート配信を実施してきた。</p> <p>市民が感染防止を行いながら音楽を楽しめるように尽力し、大変評価している。</p> <p>コロナとの共生はまだまだこれからも続くと思われるので、市民のために続けて努力して行ってほしい。</p> <p>本市には、「楽器のまち」から「音楽のまち」として発展してきた誇るべき歴史がある。コロナ禍という厳しい状況であっても「音楽の都・浜松」として名実ともに発展していくことを期待していきたい。</p> <p>そこで以下伺う。</p> <p>(1) 市長の音楽の都に対するイメージと、市民の誰もが、音楽の都・浜松と感じられるようにするために、これからどのように取り組んでいくのか伺う。</p> <p>(2) ジュニアオーケストラ浜松・ジュニアクワイア浜松を、本市は長年継続して子供の音楽教育として応援してきた。音楽の都をうたう本市として、この事業の未来の展望を伺う。</p> | | | | | | 鈴木市長 中村文化振興 担当部長 |
| 2 創造都市の推進について | <p>昨年12月、「サウンドデザインフェスティバル in 浜松2021」が開催されたが、その成果と、これまでのサウンドデザイン事業の総括及び今後の創造都市推進の展望について伺う。</p> | | | | | | 中村文化振興 担当部長 |
| 3 文化資源のデジタル化と活用について | <p>全国の博物館や美術館で、デジタル技術を応用したサービスが広がりを見せている。本市の博物館や美術館には多くの収蔵品があるが、その管理や利用者へのサービス向上にデジタル技術を活用することが必要と考える。</p> <p>また、デジタルデータを用いて、本市が持つ文化資源の魅力をさらに高めることも大切であり、その成果は、観光や学校教育など様々な分野にも応用されるべきである。</p> <p>そこで以下伺う。</p> <p>(1) 博物館や美術館におけるデジタル化の取組について伺う。</p> <p>(2) デジタルデータを用いた活用事業の今後について伺う。</p> | | | | | | 中村文化振興 担当部長 |
| | | | | | | | |

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

| 表 題 | 質 問 内 容 | 答弁者の職名 |
|---|---|----------------------------|
| <p>4 学校に行くことができない子供たちの教育について</p> <p>5 働き方改革について</p> | <p>年々学校に行けない子供が増えており、本市では令和2年度から1450人を超えている。</p> <p>教育機会確保法により「不登校自体を否定しない」という考え方が浸透してきているようだが、本市の不登校児童生徒への対応状況について以下伺う。</p> <p>(1) 長期欠席者の現状と対応について伺う。</p> <p>(2) 校外・校内適応指導教室の学習内容について伺う。</p> <p>(3) 不登校生徒の中学卒業後の進路について伺う。</p> <p>平成29年5月に県が公表した平成27年国勢調査の集計結果によると、本市の共働き世帯の割合が5割を超えており、子育てしながら働きやすい職場環境を整備していく必要があると考える。そこで、企業への働き方改革の促進など、本市の具体的な取組状況について伺う。</p> | <p>宮崎教育長</p> <p>藤野産業部長</p> |
| <p>6 高齢者にやさしいまちづくりについて</p> | <p>(1) 移動手段の支援について</p> <p>免許返納後の高齢者の移動手段の確保検討が喫緊の課題であるが、様々な手段を探し、早急な対策が必要と考える。</p> <p>市内に22か所ある生活支援体制づくり協議体においては、高齢者の移動支援が地域課題の一つとして取り上げられているものと認識しているが、最近の進捗状況について伺う。</p> <p>(2) ごみ出し支援について</p> <p>高齢化社会や核家族化の進展等に伴い、高齢者のみの世帯が増加することにより、ごみ出し困難な世帯がこれからますます増えていくと思われる。</p> <p>そこで、本市のごみ出し支援のニーズ把握及び地域における対応状況について伺う。</p> <p>(3) 認知症対策と支援について</p> <p>全国の認知症高齢者が、2025年には約700万人に増加するとされ、生涯罹患率が65歳以上の20%とも言われる中、認知症施策の推進は最重要課題の一つとなっている。</p> <p>本市においては、2040年には認知症発症人口が3万人を超えると推計され、さらに75歳以上にあっては4人に1人が発症することが危惧されている。</p> <p>認知症と診断されても、尊厳を持って生きることが出来る社会を目指し、当事者の意思を大切に、家族も含め寄り添っていく姿勢で臨んでいくために地域での支援体制が重要になると考える。</p> <p>そこで以下伺う。</p> <p>ア 認知症サポーターの養成状況と課題、及び今後の取組について伺う。</p> <p>イ チームオレンジの取組の推進状況について伺う。</p> | <p>山下健康福祉部長</p> |